

みらプロ 提案書

1 提案者

グループ名(個人の場合は、ニックネーム)
※ 提案者として県のホームページ等で公開される名称です。

うみぷろチーム

2 エントリー部門

該当する項目に「○」を付けてください(グループの場合は、構成員の最年長者の年齢で選択すること)

小学生部門	2014年4月2日 ~ 2020年4月1日生まれの方
中高生部門	2008年4月2日 ~ 2014年4月1日生まれの方
○ 若者部門	1997年4月2日 ~ 2008年4月1日生まれの方

3 提案事業の内容(各項目のサイズの変更は自由、様式内に図表を挿入可、別紙添付は不可)

(1) タイトル ※ 提案のタイトルとして県のホームページ等で公開される名称です。

みんなで海を守ろう！～地域と一緒に考えるきれいな海づくりプロジェクト～

(2) 提案の動機(この提案をしようと思ったきっかけや理由)

自分は、環境問題、特に授業で扱った海洋マイクロプラスチックの問題に関心があります。犬と散歩に行き、毎日海に親しんでいたのが問題を感じながらも、普段の生活では具体的な行動を起こすことが少なく、自分自身に歯がゆさを感じていました。今回みらプロを知り、友達と話しあった際に、同じように何か行動したいと知っているのと知り、チャレンジをしてみようと考えて提案に至りました。

(3) 現状と課題(現状にどのような課題があると考えますか)

現在、海洋汚染は深刻な問題となっています。特にプラスチックごみが分解されることで発生する「マイクロプラスチック」は、海の生物に悪影響を与え、生態系全体へのダメージを引き起こしています。
地域の海岸でもごみの散乱が見られ、放置すれば環境破壊が進む可能性があります。また、多くの方が海洋環境問題を「自分ごと」として捉えきれない現状も課題です。こうした問題を解決するためには、地域住民が参加しやすい形での清掃活動と問題意識の共有が必要です。

(4) 提案内容(課題に対してどのような解決策をとればよいと考えますか)

- ※ 提案内容の実行スケジュールも併せて記載してください。(令和9年3月までに完了する必要があります)
- ※ 若者部門は、予算見積りも併せて記載してください。(予算は100万円以内としてください)

【企画内容】

(1) 海岸清掃イベントの実施

地域住民、学生、企業など幅広い参加者を募り、海岸のごみを拾う清掃イベントを行います。手軽に参加できる活動で、直接的に環境を改善するだけでなく、問題への関心を高めます。

- ・ 対象地域: 地元の海岸
- ・ 清掃活動の流れ: 集合 → 清掃活動 → まとめと感想共有

(2) 環境教育のワークショップ

清掃活動後に、簡単な環境教育のワークショップを実施します。マイクロプラスチックの現状や、海洋ごみが海の生物に与える影響について知る場を提供します。さらに、日常生活でできる環境保護のアイデアを共有し合います。

(3) SNS 発信と啓発活動

イベントの様子を Instagram や X に投稿し、広く環境問題の関心を集めます。
地域新聞に取り上げてもらうようにするなど、地域全体で意識を向上させます。

【実施計画】

(1) 準備期間

- 9月 清掃活動に参加し、実施する団体へ協力を依頼
- 10月 チラシ作成、印刷
- 11月 地域住民や大学イベントへの協力依頼を行う
清掃道具(ゴミ袋・トング)の準備をする
- 12月～ イベント開催
- 1月～ 各回終了後の振り返りと次回に向けた改善策の検討を行う
- 2月 プロジェクトの振り返りと今後の活動に向けた検討を行う

(2) 開催日

- 12月、1月、2月の週末1日
- 12月 第1回 清掃活動・ワークショップ
- 1月 第2回 清掃活動・ワークショップ
- 2月 第3回 清掃活動・ワークショップ

【予算】

	項目	内容	金額
1	消耗品代	ゴミ袋・トング・軍手・参加者飲み物など	100,000円
2	会場費	ワークショップ会場費(3回)	150,000円
3	印刷	広報用チラシ・資料等の印刷費	100,000円
4	郵送費	チラシ配架依頼の郵送費	20,000円
5	講師謝礼	ワークショップの講師への謝礼金(3回)	45,000円
合計			415,000円

【アピールポイント】

- ・ 簡単に参加できるイベント形式で、幅広い層が集まりやすい。
- ・ 清掃活動だけでなく、環境問題の学びや行動につなげる仕掛けを用意している。
- ・ 海の保護を身近な課題として考えることで、自分の小さな活動が大きな変化を生む可能性を秘めていることを伝えられる。

(5) 効果(提案を実施すると、どのような効果があると考えますか)

(1) 直接的な環境改善

海岸の清掃によって、目に見える形で環境がきれいになります。これにより、地域住民が達成感を得られ、環境問題を身近に感じやすくなります。

(2) 問題意識の浸透

ワークショップや活動を通じて、参加者が環境問題について学び、普段の生活でできる改善点を考えるきっかけをつくります。

(3) 地域の絆強化

地域住民と一緒に活動することで、地域コミュニティのつながりが深まり、環境問題への関心が広がります。

(4) 持続可能な発展への一歩

SNS や地域紙を通じて、活動がさらに広がれば、他の地域や世代への波及効果を期待できます。これにより持続可能な未来への貢献が実現します。